

13
1344
7



伊豆金草鞋二十二編序

伊豆の御宮大権現はかけまくも
天照
太神第一の御子。正哉吾勝々速日天忍穗耳の尊
ふし日本第一の宗廟。関東の總鎮守ありと云々
往古より武門誓詞の澄明。岡運擁護の電神と
稱し奉つる所あり。さく山中の秘所。八穴の幽道を
岡に洞裡の灵泉。四種の病疴と愈し。二六時中
小十方の善悪邪正と裁断し入ると。あま推現の
本誓ありと云々。神皇后宮三韓を征し。まこと
神威と船中にあり。將軍の形と現ト多し。異國



兵悉く恐怖し退きしと云ひ傳ふ。そむく此は神あり
 びよ拷問千々姫の尊瓊々杵尊と三柱の大い神
 八十萬の神をいざさひ。高天原より此高根小幸はし
 尊。湯の泉の中より灵光と放ち頭いれさせかいて
 天下蒼生と憐れむ。此國を湯出の國と称し
 たりしと今伊豆と喚て此神を伊豆の山宮と号し奉つる
 此書當國の記行は著つてとらゆにまづ此神の事と
 ちりて平しむ。當地の杖とひつむ。不知案内ふして。覚
 束るるまで。幸あふ去夏濃州中津川の和哥丸あは人。

當國を提歴し。駅々名所をあまふ。書留うり。記
 行を贈り。越せし。みより。取敢む。その。俣と著し。されど。
 例の酒客が生酔の筆ぞき。究めて。道路の順逆すべ
 の事の送るも。妻くべし。と。其。識者の批判。ありん
 ことと希ふ。あり。

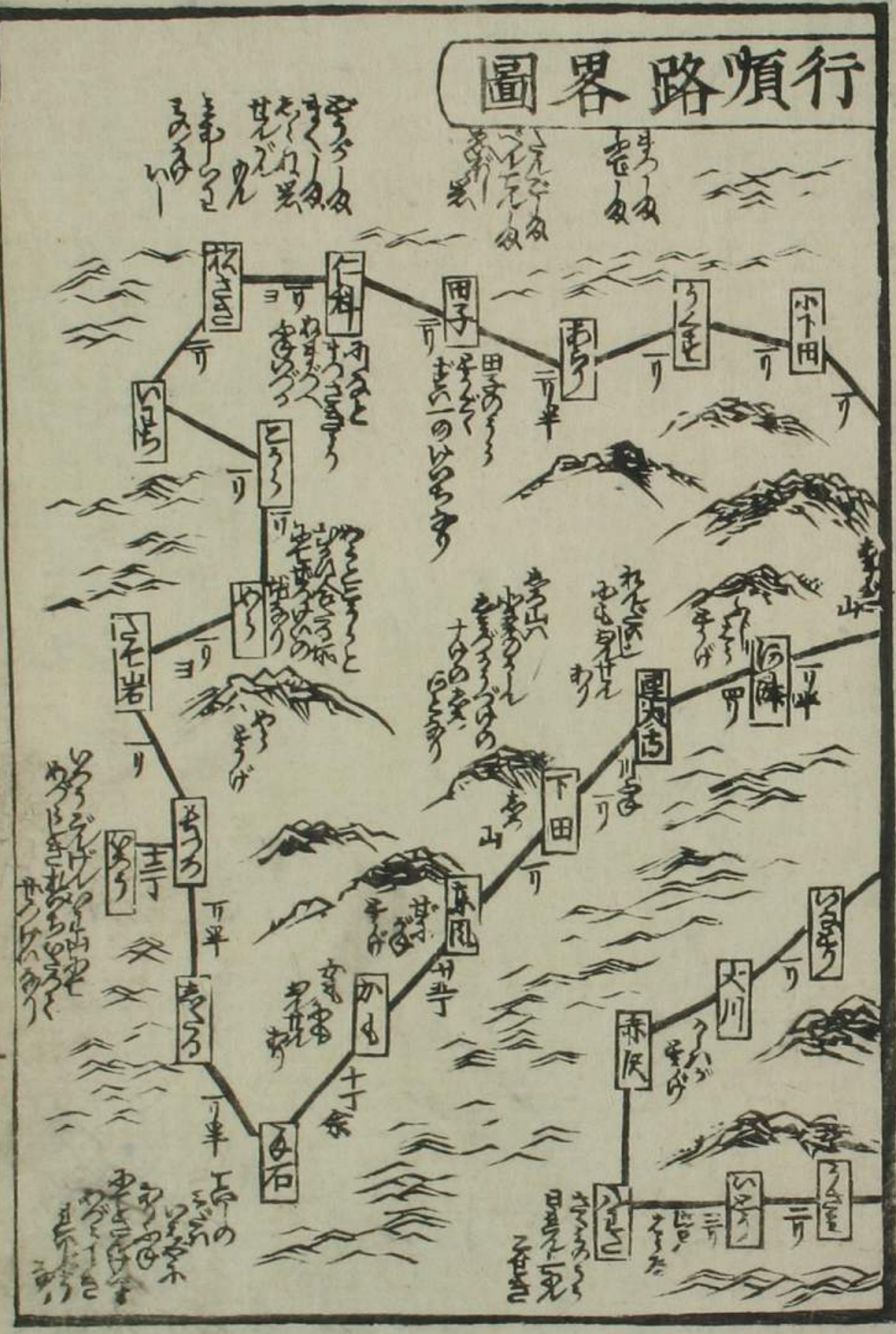
天保三辰春

十返舎一九志(真)

相州 記行 金草鞋廿三編 全六冊末辰春發行

廿三編ハ相州三河及び此編ハこの故よりと下め
 とこ子士湯あがり。名もあけ。大山より江の湯。まの。金
 の古。竹。た。り。と。ま。り。例。の方。と。な。り。

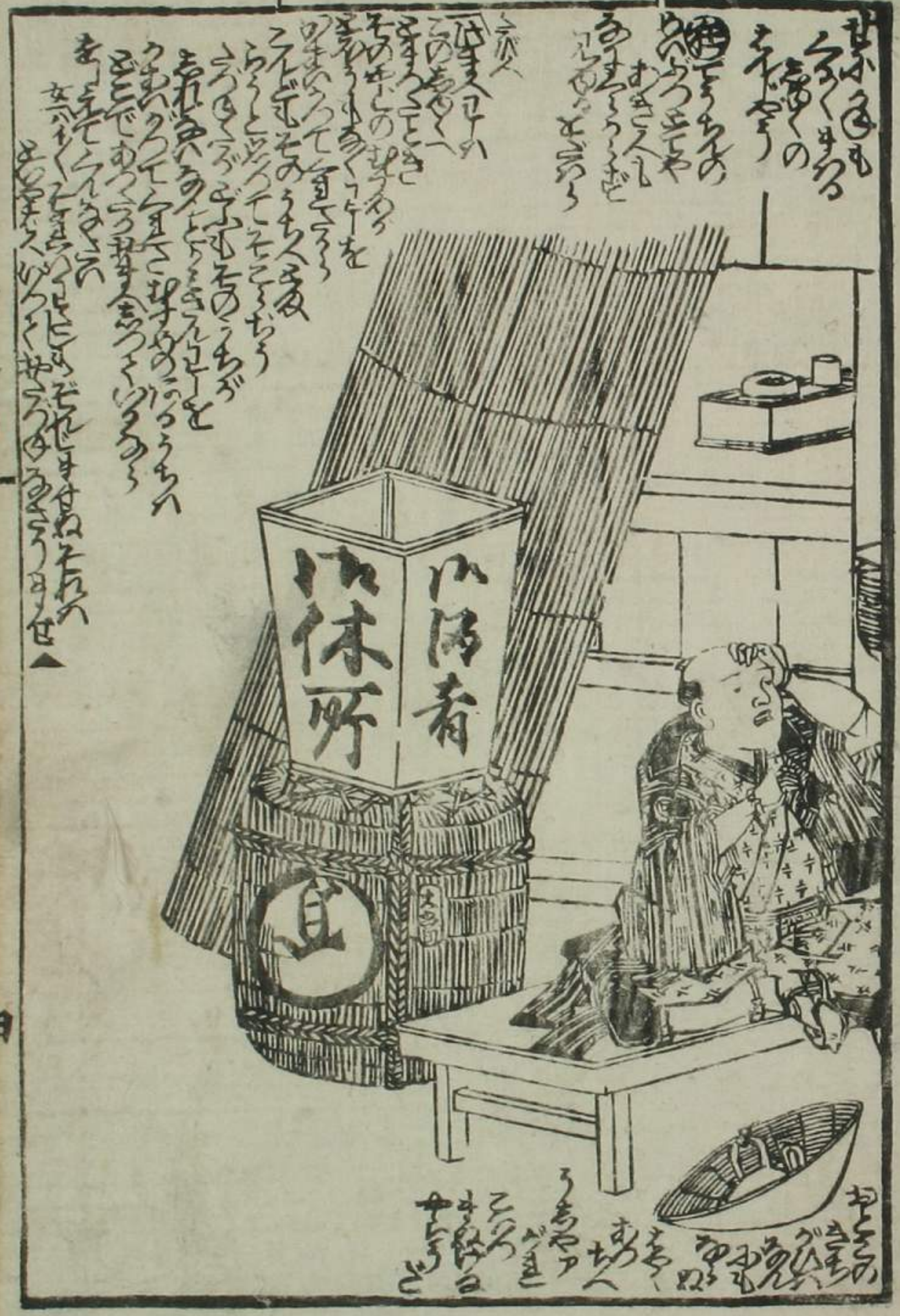
行順路畧圖



伊豆記



石橋



小田系



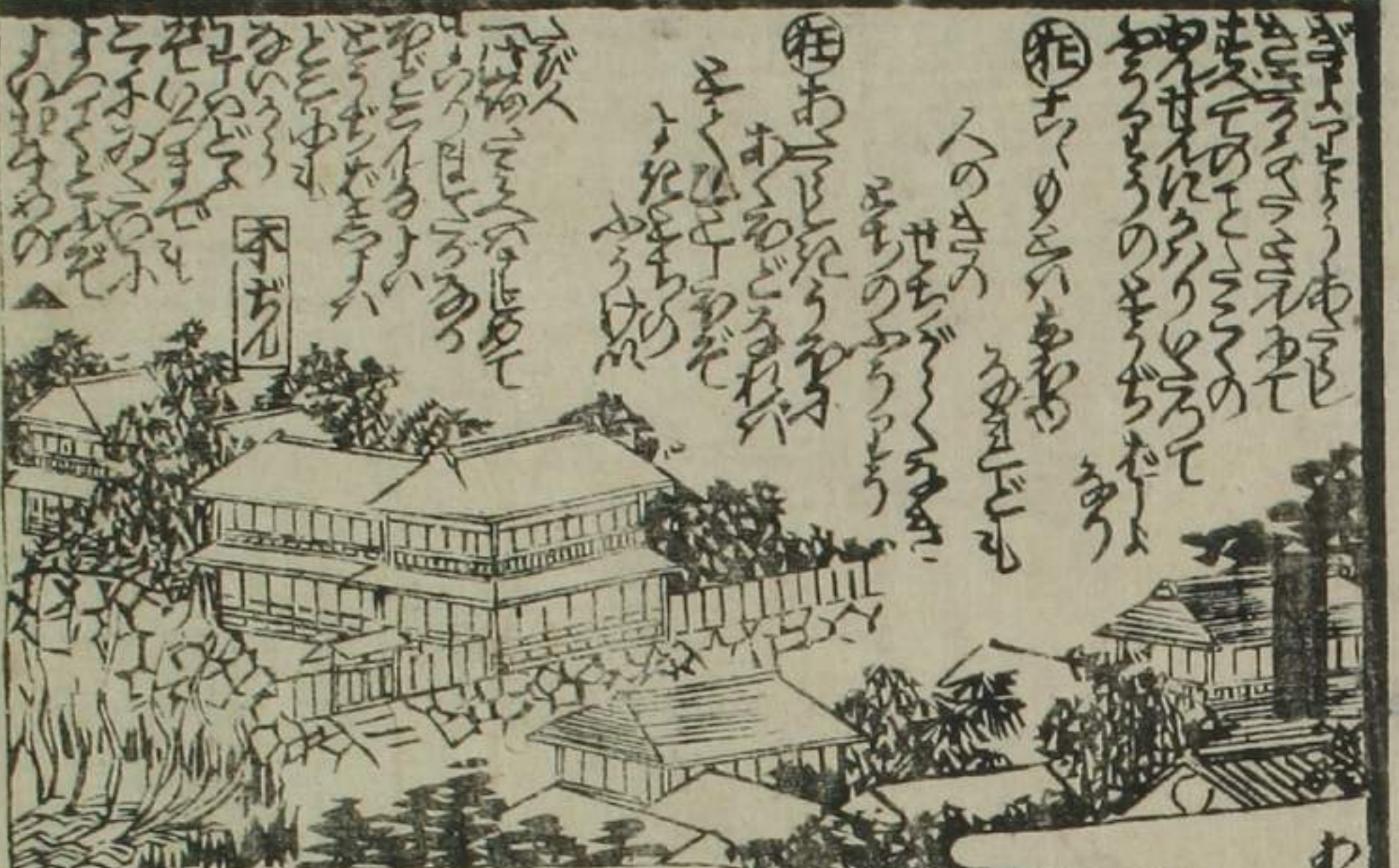
熱海の海



熱海は古くは海軍の要所として
重要な地位を占めていた
その歴史は古くは
徳川幕府の時代から
始まる



この建物は熱海奉行の
本陣であり、幕府の
支配を象徴していた
その建築は堅固で
防御力に優れていた

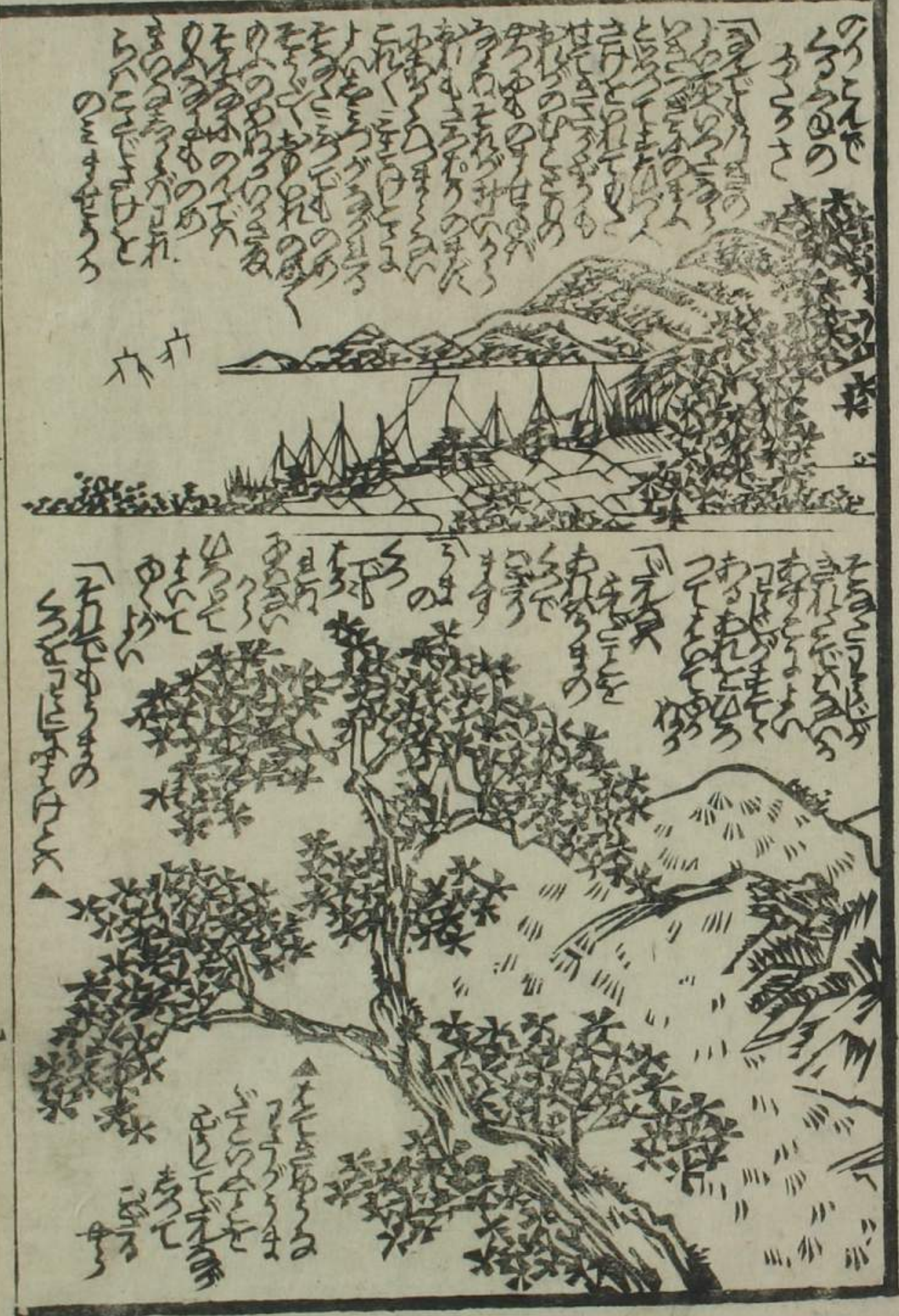


温泉の湯治場として
発展してきた
その歴史は古くは
鎌倉時代から
始まる



この建物は熱海奉行の
本陣であり、幕府の
支配を象徴していた
その建築は堅固で
防御力に優れていた

細代



賀多



伊東



伊東の山は高き山なりて
 山頂に雲が立ちて
 山麓に田舎ありて
 田舎に民衆ありて
 民衆は田を耕して
 田を耕して食ふなり
 食ふなりと云ふは
 伊東の山は高き山なりて
 山頂に雲が立ちて
 山麓に田舎ありて
 田舎に民衆ありて
 民衆は田を耕して
 田を耕して食ふなり
 食ふなりと云ふは
 伊東の山は高き山なりて
 山頂に雲が立ちて
 山麓に田舎ありて
 田舎に民衆ありて
 民衆は田を耕して
 田を耕して食ふなり
 食ふなりと云ふは

宇佐美



宇佐美の山は高き山なりて
 山頂に雲が立ちて
 山麓に田舎ありて
 田舎に民衆ありて
 民衆は田を耕して
 田を耕して食ふなり
 食ふなりと云ふは
 宇佐美の山は高き山なりて
 山頂に雲が立ちて
 山麓に田舎ありて
 田舎に民衆ありて
 民衆は田を耕して
 田を耕して食ふなり
 食ふなりと云ふは

耳高



箱鳥



加茂



東風



長津呂



下り流



一 余 岩と豎



此の山は... 岩と豎... 山は... 岩と豎... 山は... 岩と豎...
 此の山は... 岩と豎... 山は... 岩と豎... 山は... 岩と豎...
 此の山は... 岩と豎... 山は... 岩と豎... 山は... 岩と豎...

此の山は... 岩と豎... 山は... 岩と豎... 山は... 岩と豎...
 此の山は... 岩と豎... 山は... 岩と豎... 山は... 岩と豎...
 此の山は... 岩と豎... 山は... 岩と豎... 山は... 岩と豎...

名 鯉



此の山は... 名 鯉... 山は... 名 鯉... 山は... 名 鯉...
 此の山は... 名 鯉... 山は... 名 鯉... 山は... 名 鯉...
 此の山は... 名 鯉... 山は... 名 鯉... 山は... 名 鯉...

此の山は... 名 鯉... 山は... 名 鯉... 山は... 名 鯉...
 此の山は... 名 鯉... 山は... 名 鯉... 山は... 名 鯉...
 此の山は... 名 鯉... 山は... 名 鯉... 山は... 名 鯉...

可良妻



此の山は
 可良の山
 といふ
 可良の山
 といふ
 可良の山
 といふ
 可良の山
 といふ

可良の山
 といふ
 可良の山
 といふ
 可良の山
 といふ
 可良の山
 といふ



可良の山
 といふ
 可良の山
 といふ
 可良の山
 といふ

可良の山
 といふ
 可良の山
 といふ
 可良の山
 といふ
 可良の山
 といふ

小浦の浦



小浦の浦の風景
 山は高く峻険なり
 水は清く深し
 舟の往来多し
 村の静けさ
 自然の美しさ
 人の生活の静けさ
 自然の恵み
 人の生活の静けさ
 自然の恵み



小浦の浦の風景
 山は高く峻険なり
 水は清く深し
 舟の往来多し
 村の静けさ
 自然の美しさ
 人の生活の静けさ
 自然の恵み
 人の生活の静けさ
 自然の恵み

小浦の浦の風景
 山は高く峻険なり
 水は清く深し
 舟の往来多し
 村の静けさ
 自然の美しさ
 人の生活の静けさ
 自然の恵み
 人の生活の静けさ
 自然の恵み

石地り



松寄



小下田



宇久浜



リ 田と邊



グ
二
五

士
八

リ 肥ひ土と



三
三
三

士
五

三 嶋



福島屋

津 留



講中
愛宕

蘇